

安塚古墳群 発掘だより

2025.4.30

《安塚古墳群の発掘調査がはじまりました》



昨年度に引き続き一般国道158号（松本波田道路）改築に伴う安塚古墳群の発掘調査をこの4月中旬からはじめました。昨年度同様、調査は（株）島田組に発掘支援業務を委託し、用地内にタンポポが広がる季節から11月後半までを予定しています。

調査の期間中、大型重機をはじめ、車両が出入りしますので十分ご注意ください。また、調査区域内には危険な場所もありますので、許可なく立ち入らないようにお願いします。発掘の見学を希望する方は、事前にご連絡ください。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。



現場に設置したプレハブ

《昨年度の調査成果》

安塚古墳群は、松本市新村・和田地区に分布する7世紀～8世紀の古墳群です。松本波田道路は、遺跡範囲の南端を東西方向に横断し、昨年度末の時点で、用地内に5基の古墳（第12号から16号古墳）が存在することがわかっています。

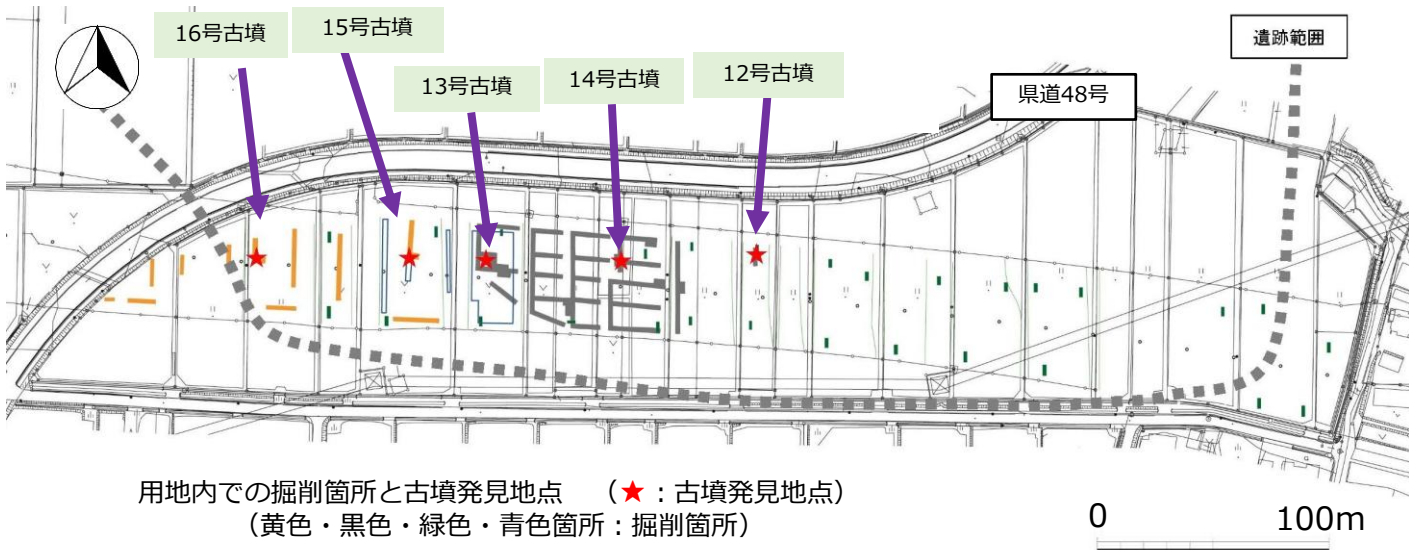


安塚古墳群の遺跡範囲（黄色塗り）
（松本市 文化財課からの提供図に加筆。赤色数字：古墳の番号）

昨年度は、みつまっている5基の古墳の内、1基
もりつち ふんきゅう
 (第13号古墳)を調査しました。古墳の盛土(墳丘)
しゅうこう
 と墳丘のまわりをめぐる溝(周溝)は確認できません
 でしたが、梓川から運んだと考えられる河原石を積む
 石室が残っていました。石室から時期がわかる土器は
 出土しませんでした。近くにある第15号古墳の検出
 時に出土した土器から、8世紀中頃の古墳と推測しま
 す。今年は、第14号・16号古墳を調査しますので、
 古墳の姿がさらにわかるものと思われます。



第13号古墳の調査風景



《今、再び脚光を浴びている安塚古墳群》

都では、646年(大化2)に葬儀や墓の規模を簡素化することを目的とした「大化の薄
そうぎ
 葬令」が發布されます。松本市の西部には、7世紀から8世紀に造られた安塚古墳群・秋葉
そうれい
 原古墳群(松本市新村)・真光寺古墳群(松本市波田)が分布しています。なぜ古墳時代
 から古代へ移り変わる過渡期に、この地に数多くの古墳が造られたのでしょうか。

昨年度、当センターが松本市のキッセイ文化ホールで速報展「掘るしん2025」を開催
 しました。当センターが安塚古墳群を調査したことを切っ掛けとして、会期中には安塚・
 秋葉原古墳の先行研究者、古墳研究者、当センター安塚古墳群調査担当で「奈良時代の
 信州に古墳はあったのか」と題したパネルディスカッションを行いました。当時の時代背景
 や、上記3遺跡の古墳群が造られた意義などについて議論し、聴講された一般の方々から
 注目をあつめました。

安塚古墳群の調査対象面積は21,000㎡で、東京
 ドーム(グランド部分)の約2倍に及びます。こ
 れから数年間に及ぶ発掘調査の成果は、地元在住
 の方や古墳の研究者など多くの方が関心
 をもっています。

発掘調査により、地域の歴史が
 より明らかにできることを期待します。



(問い合わせ先)
 長野県埋蔵文化財センター
 〒388-8007 長野市篠ノ井布施高田963-4
 電 話: 026-293-5926
 担 当: 河西
 支援業務: (株)島田組
 山本/丹生/植野/加藤
 メール: maibun@naganobunka.or.jp
 H P: <https://naganomaibun.or.jp>